



ペカット | Ex Knitzer Paris 1845  
輝きのある音色を兼ね備え、一般の造形を持つ《ペカット》最高品質の1本

1838年にはリュボが他界したため、ペカットはヴィヨームとの良好な関係を維持したままリュボの工房を引き継ぐことになりました。理想的な形で見事な独立を果たしたのです。その結果、独立後もヴィヨームとの関係は良好で、彼のために多くの弓を外注として製作しています。

以降ペカットは、自身の力強いスタイルを確立していき、さらにその才能を開花させ、演奏家は勿論、弦楽器工房及び楽器商等からも非常に多くの注文を受けるようになります。そのため、より多くの作品を製作するために、器用で仕事が早かった幼馴染のピエール・シモンを故郷のミルクールからアシスタントとして迎えます。

この頃からペカットは、トゥルテの工房に出入りしていたことのある弓製作家フランソワ・リュボの工房を頻繁に訪れるようになります。おそらくペカットは、自身の新たなスタイルを模索していた、ヴィヨームの考えだけでなく、何か違うものを求めていたのだと考えられます。

このことをヴィヨームはあまり快く思っていなかったのですが、ペカットは根気強くヴィヨームを説得してリュボの工房に通い続けたのです。そのため、この時期のリュボの作品には、ペカットとの共同製作の弓が存在します。

1830年には兵役義務があったのですが、ヴィヨームの口利きと金銭的な支援により、入隊を回避することができました。このことからヴィヨームのペカットに対する強い期待がうかがえます。

また、1835年にペカットは25歳で結婚しますが、この時の立会人としてヴィヨームと弦楽器製作家ジョージ・シヤノーの署名が結婚届に残されています。このことはヴィヨームとシヤノーの親密さも表わしています。

なお、ヴィヨーム夫妻は、翌年生まれたペカットの娘の名付け親にもなっております。

そして同年、巨匠F・X・トゥルテが他界します。この頃からペカットは、トゥルテの工房に出入りしていたことのある弓製作家フランソワ・リュボの工房を頻繁に訪れるようになります。おそらくペカットは、自身の新たなスタイルを模索していた、ヴィヨームの考えだけでなく、何か違うものを求めていたのだと考えられます。

開花させ、演奏家は勿論、弦楽器工房及び楽器商等からも非常に多くの注文を受けるようになります。そのため、より多くの作品を製作するために、器用で仕事が早かった幼馴染のピエール・シモンを故郷のミルクールからアシスタントとして迎えます。

### ■ トウルテの死と新たな展開

そして同年、巨匠F・X・トゥルテが他界します。

開花させ、演奏家は勿論、弦楽器工房及び楽器商等からも非常に多くの注文を受けるようになります。そのため、より多くの作品を製作するために、器用で仕事が早かった幼馴染のピエール・シモンを故郷のミルクールからアシスタントとして迎えます。

### ■ 直観的で感性の鋭い個々が異なる《ペカット》弓

《トゥルテ》と《ペカット》の作品は、たびたび比較されることがありますが、《トゥルテ》は製作時期ごとのテーマや基本的な型があり、天才的に計算され尽くした見事な作品を製作しております。対する《ペカット》は、その感性と勢いで直感的に製作された作品が多いため、作品のつひとつが違います。しかしそれらすべてが、見事に《ペカット》の濃厚な個性を持つ力強い作品となっているのです。これが《ペ

# フレンチ・ボウの名工

## 弓の歴史と名工たちの系譜

演奏家にとって「ある意味では楽器よりも大切」といわれる「弓」。中でもフレンチ・ボウは18世紀から現在に至るまで最高級の弓であり続けている。今号では、2020年6月号でご紹介した《トゥルテ》と並んで「弓の二大巨匠」といわれる《ペカット》を紹介する。

文 / 清水宏

### 第2回

# Dominique Peccatte

ドミニク・ペカット（1810～1874）は、フランソワ・グザヴィエ・トゥルテと並び、フランスの楽弓製作史上もっとも活躍した製作家の一人で、トゥルテが、弓のストラディヴァリと呼ばれるのに対し、ペカットは、弓のグァルネリ・デル・ジェス、とも例えられるほど、多くの演奏家、収集家、製作家、楽器商にまで広く絶賛されています。

### ■ ミルクルのぶどう園に生まれ10代で弦楽器と弓に目覚める

1810年7月15日にフランスのミルクルで、二つのぶどう園を所有する中流階級の父親ジャン・フランソワのもとに生まれたペカットは、カトラ職人だった父親の後を継ぐ為に12歳から美容師の仕事を始めます。しかし、弦楽器に興味があったペカットは、パリで活躍していた弦楽器製作家ジャン・バティスト・ヴィヨームの弟ニコラ・ヴィヨームがミルクルに工房を構えていることを知り、彼に相談して弦楽器と弓の製作を始めます。

その後、1826年頃にジャン・バティスト・ヴィヨームが、弦楽器製作だけでなく弓製作の工房を立ち上げ、偉大なトゥルテにも対抗できるような一流の弓職人を育てようと考えていたため、ペカットはニコラ・ヴィヨームの推薦で、父親の仕事を継がずにパリへ行

くことにしたのです。パリに着いたペカットは、すぐにヴィヨームからジャン・ピエール・ベルソワの下で弓製作を学ぶように指示されます。するとペカットは、急速に弓製作の能力を伸ばしていき、ヴィヨームから絶大な信頼と好評価を得たのです。

1830年には兵役義務があったのですが、ヴィヨームの口利きと金銭的な支援により、入隊を回避することができました。このことからヴィヨームのペカットに対する強い期待がうかがえます。

また、1835年にペカットは25歳で結婚しますが、この時の立会人としてヴィヨームと弦楽器製作家ジョージ・シヤノーの署名が結婚届に残されています。このことはヴィヨームとシヤノーの親密さも表わしています。

なお、ヴィヨーム夫妻は、翌年生まれたペカットの娘の名付け親にもなっております。



ペカット | 弓先のライン  
弓先からヘッドの縦のラインを見ると、必ずと言っていいほど右曲がり（ペカット）特有の削りの手癖が見て取れる



ペカット | 特徴的なシャンファー  
《トゥルテ》はヘッドのシャンファー（面取り）をナイフで削っているが、《ペカット》は、ヤスリで削っているため、画像のように粗めにヤスリの削り跡が残されている作品が少なくない



ドミニク・ペカットの肖像画  
(Dominique Peccatte)



# Pygmalion

Violin, Viola and Cello



VL400 per ORCHESTRA

豊かな倍音と伸びのある美しい響きが、明快かつ繊細な音の輪郭を奏でるオーケストラモデル。

## “Quality Orchestra Education for All”



ピグマリウスはSDGsの一環として Quality Orchestra Education for All を推進しています。

安心のメーカー公式オンラインショップ



アルシェ製の新作楽器、弓、松脂を Webでお求めいただけます。

ARCHET.shop



株式会社 アルシェ | 〒250-0876 神奈川県小田原市中新田328-3  
Tel:0465-48-8851



《ベカット》がミルクールに帰郷してから製作した《トルテコピー》の作品。スティックは「ベカット」により製作されたフロッグは製作当時のオリジナルで「メアー」によって製作されている

「カット」が「弓の《ゲアルネリ・デル・ジェス》と呼ばれる所以です。」

その後、弟のフランソワ・ベカットや、ジョージ・シャノーの工房で弓製作をしていたヨーゼフ・アンリなども《ベカ

ト》の工房で働くようになり、さらに数多くの素晴らしい作品を製作していきます。

結局ベカットは、1847年に自身の工房をシモンに譲り、ミルクールに帰郷するまで、非常に多くの作品を残したのです。

帰郷後は、主に実家のぶどう園の仕事をしていましたが、弓製作も続けていて、ニコラ・メアー等がしばしばベカットの仕事を手伝っていました。そのためこの時期の作品には、スティックがベカットにより製作され、フロッグはメアーにより製作された作品なども存在しています。それでもこの時期の作品は衰えることがなく、ベカットは若手の製作家たちに非常に大きな影響を与えながら、力強い弓を製作しています。

そしてその後もベカットの順風満帆な生活は続き、自身のぶどう園で製作したワインを存分に楽しみながら弓製作に励み、1874年1月13日に63歳で他界したのです。

■ 《ベカット》黄金期の1845年  
■ 力強く厚みのある《exクナイツェル》

今回ご紹介するベカットの作品《exクナイツェル》は、黄金期後半の1845年頃に製作された《ベカット》を代表する見事な作品です。ヘッドは

厚みのあるスクエア型で大きくて力強く、スティックは太く、材質は宝石のように輝きがあり、まるで《トルテ》のそれを思わせるような煌びやかに美しい木材で製作されています。フロッグは上質な鼈甲と金を用いて製作されていることから、この作品がベカット自身にとっても渾身の作品であったことがうかがえます。

また、力強さと奥深さに加え、輝きのある美しい音色をも兼ね備えた作品は、巨匠《トルテ》の作品にも決して多くはなく、本作品は、《ベカット》の弓の中でも紛れもない最高品質の作品といえるでしょう。

**Hiroshi Shimizu**  
ラルジュ・ファイン・ヴァイオリン代表  
(資料・写真提供)



2003年に株式会社ラルジュを立ち上げ、以降、ロンドンとニューヨークをはじめとする世界各国のディーラー、オークション会社と太いパイプを持つ。また、修理・調整についても国内外の演奏家たちに支持されている。